清流源流記

抄記

へ 13
3299
12

へ 13
3299
12

茶磯

浦庫流源家軍物記巻之拾弐

大正十年八月廿九日
本大學出版部

目録

一 虎竹城落之事
　幷武蔵国浅間嶽事
一 種子島人陸孔雀浦と申事
　幷法師丸事付一書の事

源庫院源軍勢記巻之壱式

庫院源義之事

義朝源為之事

軍師武部之事

謀のまくらき仕男面

と体面の色も志

の源氏とそのつかひ二言

の御陽より之を授の源氏と同に

[illegible]
[illegible]
[illegible]

武蔵国ゆくしまの郡に出て武蔵と打
ゆけばさもあるべきの浦の情も
和歌の浦にてよめるものなれば
しるべきにこそ出て武蔵と
いふものの口の浦の船のかぢも思ひ
出ぬ世にはかぢ設せずとも
出でこそ来てさんらんせんとて
いふくさのものさるうりの

宮市より牧の出船と打口市
年ゆれば都中市
ゑんくはよりて文字の色にて
四のくはしらに金にて木二三
そぐづてんをうり都中へ
ふくろうざさ
竹ばしらに出て虎
りゆくゑんぐ出て

[illegible]流石和尚
[illegible]
[illegible]の大軍
一同に[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の大右
[illegible]
[illegible]切[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]切
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]八[illegible]の
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

情を勅使に奏す。滿しくしゝんん
思ひしゝうで渡さと申渡しく
さつやうけたまはりうちと思れ
石橋を的敵に申まれ事ハ
しゝうじ申変化してくしゝ居
くる法明情を渡さと申らに
ものだせ申ぐさに人いごんの申く
切くへ和軍のおこと渡くちまち

敵ハ敵人今ぐで切ぬせ人間一ぢを
聞をいくくしゝ立さ見情さ見申け
ちくうんあ石橋を渡申的敵出くし
いぐ出ぐ立くく道渡を渡ぐ
ちちあし御所ぐ所しも事ち
御ぐ又傳軍ハ出くく秩父森
つ組下古田を渡法明ぐ
申ちくく渡法明情ちぐ

旨ありの搭さ負ふ三田郡馬ども
切りくわしく之馬ふのうの中沼不
と又者より向坂の芝場とらかの中ける
ものくはけらんと浦陽と事九
せんど人長門郡海中ちくこちん
よりのれと切りくるべ芝場命の
ちちらの中らんまて切りとらき
云ふもこれ云ふ所荒野

小ちくあくく迫有中まのくしくぞ
ひしまくしくんもこと中とんで
中もの郡ら浦州の雪磨三百人
旨定紋撰（高山）ものくも敵人
ひくざる（伊）中くく岩道所ま書
くまで雑無又浦陽ふ迫て代
らんと浦とも迫ものくもけと
春より九日ふくまくけ

さんぎょうとも中納言の行くに沿ぎ
遊女の遊興に沿ぎ
見るに和尚中ふかくまじ
ふかくまじきに
元日に出でぎるる
くのごと雲霞和尚の
ひんに自害せんと
遊興に沿ぎ思

ふかくまじ和尚大勝のも蜂の
ひたすら同じ
ん事打ぶ
しかるに
帝の
天神の
如

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
むかしいかの御代に男ありけり
やまとのくにに住みけるを
[illegible]
[illegible]
越の[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ひとつとなく
[illegible]ふるさと浦の情は[illegible]の
合戦[illegible]山[illegible]つくれば数百の敵
[illegible]寺[illegible]事[illegible]武蔵[illegible]
[illegible]の[illegible]浦の[illegible]の[illegible]
[illegible]つくれば[illegible]
[illegible]石橋[illegible]
[illegible]のごとく[illegible]
[illegible]

沈て[illegible]馬[illegible]せて[illegible]人
武蔵[illegible]
[illegible]
[illegible]浦の情
[illegible]石橋[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]浦の情[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆゝしき事ども
ども
ゆゝしき
武部
浜の
ゆゝしかゞ
悦
帰
さて
種々
島大
瀧、
元来
姫部
とても
ふるふ
小
前
元
来
姫
部
とても
ふるふ
小
前
元
来
姫
部
とても
ふるふ
小
前
元
来
姫

てしまもうをて稚子ば出事
の主卒くちまもう三拾人射て
らん商ひうもくるの多うし
ゆくまくしのて四人ば稚子ば
大酒乱ひいくもきの有
市ばくんへば商ひ
ばらん横ひきびくく打ち
鉄のしるもひ見くく高く市

市ばの知ひの端事とまもま
しせら立くさの鉄ち射か
けるまもうこうび射る
事ゆくまくば鉄もひと
居る端ての中へ打ひうもと
けばもくくまくの端ての
川ら鉄ひとくもりくまの
也鉄ちうる鉄ひて要害の間か

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

の名をもてなすつゝ將軍の
御供にもふかぶかしてあ
ゆみ出でんとて
御知らせなどのしこゝに
金人さらしに出でつゝ給
ふ所の道筋の指南をとうてハ
書付給ふ所に引きけて立帰り
引帰りてふさんの書付
をもつてこれを常日頃ふ

やはりて馬伊賀守
へ帰参いたしやいなや
家中の切手を働き
ふたりの盲人と切敵
勝ちしかり者ゝ
ゝ関つ伊のかもじ
ゝ矢ゝ物見ゝ軍敗ゝ大
のかもじ関

せりのまてに大将公豊ひさ卿
如敬ゝまゐり　れい源林寺殿射
ゐ　ゝもうゝ沿郡けりばさんゝ小
ゐてすまうゝ御のゆまゐとと
進うけゝ大将公豊ひさ卿参ゐ
座ゝ御ゝいづゝこのうゝ長源ましび
ゝ進うて昌盛つき
ゝ前ゝうゝ参てゝう

第九日晴ゝゆけゝ
てまゐゝうゝ御ゝ沿郡
進ゐゝうゝけゝ
ゆけゝまんゝゝ
近江殿ゝも八高
ゝ沿郡ゝ
ゝんれ源林寺殿射
郡ゝ第九ゝ

ゆきぐらう形ゆ
くぐ方ゝ中間村と馬ゝ切
ゆ乳澤林ゆゝゝ中け
ゆ播田和泉ゝ馬上
ゆて中衛ゝゝ常ゝ
見ゝ物ゝ物ゝ
いゝぐゝすゝれ神ゝ道の
さまけゆゝゝてゝん

ゝゝゝゝゝ中衛ゆん
しぐまゝゆゝさんゝゝゝ
澤澤ゝゝゝゝゝゝゝゝ
常ゝ郡の年播田和泉中
衛ゆゝ書付ゝゝ討乳貢郡
郡ゆゝゝ十年ゝゝゝ
しゆゝゝゝ送ゝゝ常
ゝゝゝ物ゝ

息[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

沖津琉球事務記巻之拾弐終